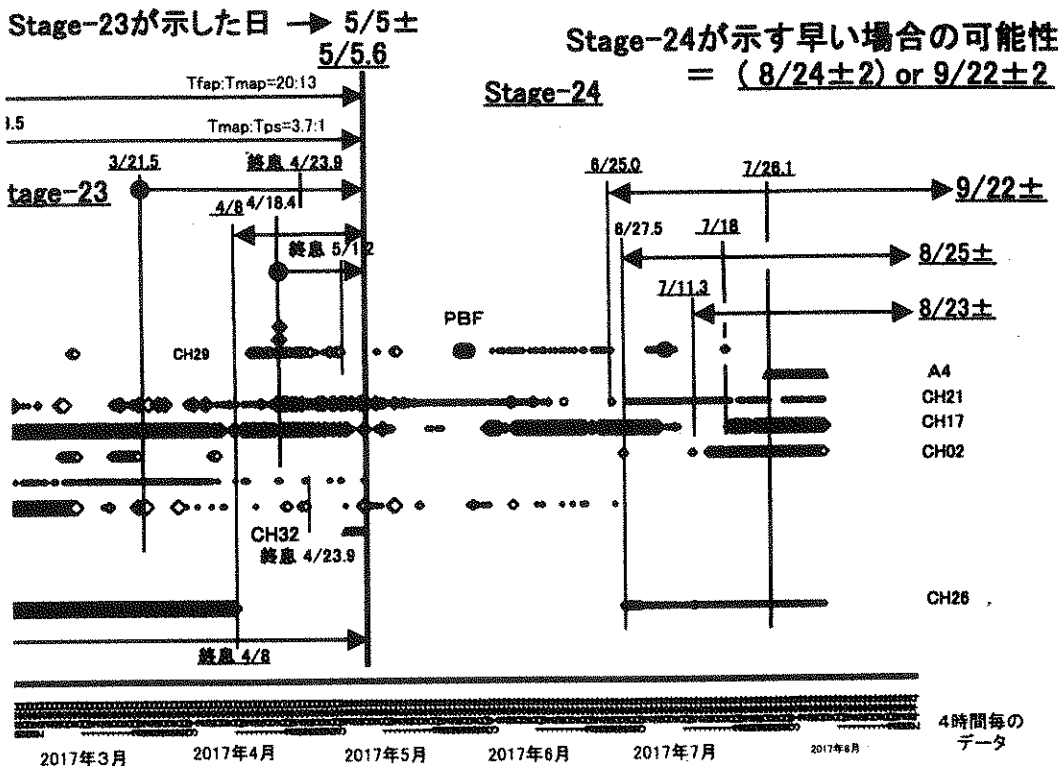


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 8/6 午後現在 前兆継続→より先の可能性



2008年07月初旬から9年1ヶ月以上も前兆が継続する、観測歴上最長継続特殊前兆No.1778前兆群の続報、現況報告です。

現在は第24ステージ認識です。第24ステージの現状での最終極大認識は、7/26.1です。以前の第24ステージの前兆関係からは8/8-9 ±の可能性も示唆され、仮にその場合には、8/5 ±に前兆終息となる筈であることが計算されていました。

しかし、表題のとおり、本日8/6 午後現在、継続出現前兆である、CH2, 17, 21, 26, A4 の5観測装置の前兆は継続出現しております。

8/9 ± 3とした場合、誤差を考慮しますと8/12迄は可能性が否定できませんが、その場合には8/7.9 が計算上の前兆終息時期となります。8/8 午前にまだ前兆が継続していた場合は、8/9 ±の可能性は完全否定となります。

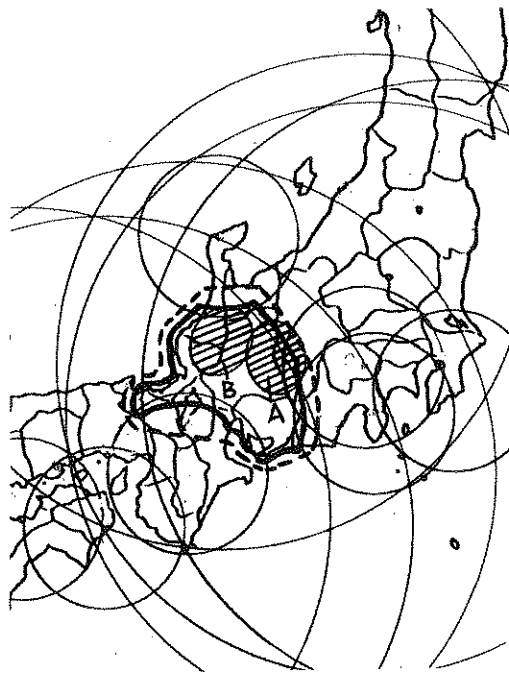
左上図(前兆出現状況図)の前兆を改めて関係を見直しますと、8/24 ±と9/22 ±の可能性が示唆されることとなります。

今後の変化を観測しないと決定は困難ですが、以下の①~⑤のいずれかの可能性が示唆されます。

- ①8/8 前兆終息の場合=8/12 ±
- ②8/9 ±に極大出現の可能性
- ③7/26.1最終極大の場合で8/16前兆終息の場合=8/24 ±
- ④7/26.1最終極大の場合で9/7 前兆終息の場合=9/22 ±
- ⑤今後極大出現の可能性
その場合は今後の変化で推定

8/20迄に前兆が終息しない場合は09月以降となる可能性が決定されることとなります。

前兆終息が観測されたら、ご報告させていただきます。また大きな変化が認められました場合にも続報でご報告させていただきます。今後の変化で現在の認識が修正される可能性もあります。



- ◆推定領域: 左図 点線領域内=大枠推定領域
太線領域内=可能性考え易い
斜線領域=火山近傍推定領域
※No.1778前兆には火山近傍地殻地震の可能性が示唆される前兆があるため、火山近傍の可能性有斜線領域BよりもAの方が若干可能性考え易い
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5 震源浅い地殻地震
※地震活動に伴い火山活動活発化又は噴火の可能性も示唆される
- ◆推定時期: 右①~⑤の変化の可能性有
前兆完全終息まで発生時期決定困難
少なくとも8/11以前の可能性否定
- ◇推定発生時期: 午前9時 ± 1時間
又は午後6時 ± 3時間